

AIJAとは、世界各国の若手法曹関係者間の相互協力および相互尊重を促進するため、1962年に設立された45歳以下の法曹等有資格者を会員とする国際法曹団体であり、約90か国・約4000人が加盟しています（日弁連HP）。特徴としては、45歳以下の若手弁護士で構成される組織であること、ヨーロッパの弁護士がメンバーの大部分を占めることです。実際、今回の大会は香港で開かれたのですが、参加者のうち、ヨーロッパ系が8割ほどで、ホームのはずのアジア系は1割程度でした（日本人弁護士は10人もいない程度）。

今回、このAIJAのハーフイヤー大会に参加させていただきましたので、その活動につき報告いたします。

1 開会式

大会会場のホテルからバスで移動して、何も知らない私が連れていかれたのは、なんと競馬場でした。ジョッキールームを貸し切った開会式及びパーティーで、競馬のレートを横目にお話を聞き、馬券を買って楽しんでいる方も少なくありませんでした。

2 セッション

AIJAの大会も、IPBAの年次総会と同じく、自分の興味のある分野のセッションを受けることができます。AIJAには人権関係のセッションもあり、世界的な人権感覚を学びたいと思い人権セッションを中心に予定を立てていました。

受講したセッションのうちには、IPBAでも受けたテーマと同じフェイクニュースに関するものもありました。AIJAでは表現の自由に重きを置いて

解説していましたので、企業法務を念頭に解説する IPBA のセッションとは全く違う視点からフェイクニュースについて解説していて、とても興味深いセッションになりました。なお、今年の司法試験の憲法の問題もフェイクニュースに関するものであり、世界的にホットなテーマだから出題されたのだろうと感じたところです。



3 パーティ&パーティ

AIJA の特徴の一つとして、他の団体と比べて「パーティー好き」という点があると、参加前に聞いていました。若い世代が多く、夜中まで騒ぐ元気のある団体ということかと思います。

事前の情報どおり、毎晩、夜中までパーティーをし、メインのパーティー後には、深夜までダンスクラブで踊り明かしました。ダンスクラブにおいて、私は、外野で他の参加者と話をしたり、たまにダンスをしたりといったかたちで楽しみましたが、弊所代表中山は、一貫してホールの最前列、どころかステージに上って踊り続けていました。

4 AIJA を通して感じたこと

初めて AIJA に参加し、多くの近い年代のヨーロッパ系の弁護士と話げできました。セッションにあまり参加できなかったのは残念でしたが、夜の社交だけで十二分に楽しむことができ、弊所代表中山が、「AIJA の大会は夜が本番」とっていた意味が分かりました。

ある参加者が、「ここでは仕事関係を抜きにして、単に友達を作りに来ている」旨話していましたが、実際、名刺交換に躍起になっている人は見かけず、多くの人げ、各国の同年代の友人と楽しむことを目的にしているように見られました。

次回は、イタリアはローマで AIJA の年次大会があるので、今回以上に楽しみたいと思います。



以上